

札幌市公文書館常設展示案

『公文書館でみるさっぽろの街づくり』

- 1 公文書館とは
- 2 札幌市の公文書館
- 3 札幌の形成と発展

札幌市は明治初期に街づくりをはじめたときから政治都市としてあゆみはじめ、人口増加とともに経済的な機能も向上していった。明治末から大正期には、政府の出先機関が集まり、昭和戦前期に人口が全道一となり、日本銀行札幌支店の開店など経済的機能も集中してきた。戦後になると政治的経済的機能の集中がさらに進み、人口も急増していった。それに伴い市街地も郊外に広がり、様々な社会資本の整備が進んだ。しかし新たな都市問題も発生し、その解決を図りながら街づくりを行っている。

【趣旨パネル】

- ・ 開拓使の諸役所、官営工場、札幌農学校などの開設
- ・ 明治中期以降 北海道移住者の増加とともに札幌の人口も急増
- ・ 政府の出先機関の集中
- ・ 大正～昭和戦前 札幌の人口増加 北海道一位に
- ・ 戦争中の企業合同などで札幌に大企業が集中、日銀札幌支店の開設
- ・ 昭和戦後 企業の支店が札幌に集中 銀行の集中
- ・ 人口の急増 煤煙公害、河川汚染 → エネルギー転換と下水処理など
- ・ 都市の拡大に合わせて社会資本の整備 → 新たな都市問題

【展示の構成】

- ① 都市建設の開始（幕末～明治初期）
- ② 札幌区の都市政策の開始～都市としての成長～（明治後半～大正前半）
- ③ 都市計画行政の開始（大正後半～昭和戦前）
- ④ 昭和戦後の人口急増、周辺町村との合併（昭和戦後～昭和 40 年代）
- ⑤ 長期計画による都市整備と札幌オリンピックの開催（昭和 30 年代～昭和 40 年代）
- ⑥ 政令指定都市への移行（昭和 47 年を挟んで）
- ⑦ 都市問題への対応（昭和 30 年代～平成）
- ⑧ 市民が主役の街づくりに向けて（平成）

札幌市公文書館オープン記念展示案

『公文書で検証する都市整備』

1 札幌区と公文書

明治2年開拓使による札幌本府建設開始後、札幌の中心部は札幌町、札幌市街、札幌本庁下などと呼ばれていた。郡区町村編制法が施行されて明治13年札幌区が成立したが、その時札幌郡域を札幌区とした。中心部の市街地と周囲の村落との呼称に混乱が生じたため、明治17年中心部を札幌区とし周囲の村落部を札幌郡として区別し、札幌区の呼称と範囲が確定した。その札幌区は、明治32年北海道区制が施行されて自治体となり、その区長は札幌区会が推薦した3人の候補から内務省が選定した。

【展示内容】

- (1) 明治17年札幌区の範囲決定
- (2) 明治30年北海道区制の制定
- (3) 札幌区長の任命

2 都市整備と公文書

札幌は、明治はじめに本府建設を開始した時から下水道の整備、碁盤の目状の街など計画的に街づくりが進められた。明治19年設置された北海道庁は、新たな開拓方針をもって北海道の開拓をすすめた。その事業の中に新川や排水溝を整備して札幌周辺の原野排水を計画し、入植地を確保しようとした。そして明治20・21年に新琴似屯田が、22年に篠路屯田が入植した。その後大正12年都市計画法の札幌施行後、都市計画法に基づく札幌の街づくりがはじまった。

また街づくりの開始から周囲との交通路を整備し、明治6年の札幌本道開通、明治13年の幌内鉄道開業など、交通路・交通機関が整備されていった。明治末から昭和初期には、現在の札幌市内に馬車鉄道3路線、市内電車、地方鉄道、バス路線が営業をはじめた。同じ時期それらと競合する、採算がとれないなどの理由で実現しなかったが、軌道や鉄道の事業が計画された。

【展示内容】

- (1) 創成川の延伸と札幌近傍原野排水、新川開削、琴似新道と新琴似屯田入植地
- (2) 都市計画区域決定、都市計画地域決定、都市計画用途地域変更など
- (3) 幌内鉄道完成期の新路線構想
- (4) 大正～昭和初期の軌道・鉄道構想